

校 園 名：熊 本 大 学 教 育 学 部 附 属 中 学 校

所在地：〒860-0081 熊本県熊本市中央区京町本丁 5 番 12 号 電話番号：096（355）0375

記載日：平成 28 年 5 月 20 日

記載者：上 妻 昭 仁

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

綱領

真実を求めて

響きあえ たくましいからだで

響きあえ 厳しい知性で

響きあえ 豊かな心で

綱領にうたった「響きあい」の精神のもと、お互いに交流し、愛情と尊敬と秩序をもった集団です。

(教 員) 「研究」と「教育実習」を職務の柱と自覚し、学校教育目標の実現に向けて常に創意工夫を心がけ、各学校行事や部活動にも精一杯取り組む集団です。生徒の自治的な活動を重視し、学校行事を中心とした体験的な活動を通して「人間的な心のふれあい」を大切にした教育を推進しています。

(生 徒) 後輩が先輩の姿を見て学び、自主的に問題の解決に向けて行動し、論理的に考える術を持った自治的集団です。学習面だけでなく、生活面の向上や学校行事の諸活動にも一生懸命に取り組んでいます。体育大会・駅伝大会に向けての朝練習・夕練習、合唱コンクールに向けての朝・昼・夕の練習、これらは、本校の伝統として、生徒のリーダーシップと自主的な活動によって行われています。これらが伝統になりうるのは、学年の縦割り集団が形成され、3年生が1、2年生にアドバイスしたり、サポートをしたりしているからだと思います。

(保護者) 学校の教育理念を共感的に理解し、学校の教育活動を様々な面からサポートしてくれる集団です。現役 PTA 会員のみならず、会員 OB までもが協力を惜しまない伝統があります。

貴校の卒業生の活躍状況について：

卒業生の進路等の追跡調査はしていません。卒業生やその保護者、進学した学校の教職員等から、情報を得る程度です。毎年10月下旬に「先輩と夢を語る会」を実施し、各分野で活躍されている本校の卒業生に來校していただき講演等を実施しています。これまでに、理系分野、文系分野、芸術分野、スポーツ分野等で活躍されている先輩の話聞くことができます。PTA新聞にも先輩の近況報告コーナーを設け、先輩の現在の活躍状況や中学時代の様子等について、記事にして知らせたりしています。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本校勤務経験者について、取り立てての追跡調査はしていませんが、現役OBについては、毎年「OB教官と語る会」と称する校内研修などの情報交換会及び懇親会を開催しており、その出欠確認の折に、所属等を確認しています。

平成27年度の現役OB教員の職名は下表の通りです。

教授	2	校長（副校長）	12	教頭	17	平成27年度 現役OB 71名
主幹教諭	1	教諭	31	養護教諭	3	
指導主事	3	主任指導主事	1	管理主事	1	

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

- 1 平成29年度まで文科省の研究指定を受けている「『思考力』を育成するための新教科『未来思考科』を位置付けた教育課程、未来思考科の指導内容、指導方法及び評価方法についての研究開発」は、今後の大学入試等も視野に入れた先導的な取り組みと考えています。正解のない、変化の激しい社会の情勢において、異なる価値観を持つ人々との関係の中で生きていくための基礎的な力を育む取り組みです。
- 2 生徒たちによる「課活動」（委員会活動）を中心に、体育大会などの学校行事を3年生のリーダーシップのもとに企画・立案している点は附属中学校の伝統であり、そのシステムは公立学校でも大いに生かせる要素があると考えます。生徒を本気にさせるシステムのモデルです。
- 3 研究推進のためのシステムなど、本校経験者の教員が公立学校でリーダーシップを発揮しており、研究開発校として、先導的な役割を果たしています。

【具体的な取り組み例】

- 1 大学との連携
 - ① 「学びの交流会」と称して、年に一度、生徒が大学の講義を受ける場を設けている。本校の研究との関わり、キャリア教育の一環として行われる。
 - ② 大学教員の教育実習時の授業研究会への参加
 - ③ 研究発表会の授業や資料等に関する大学教員からの助言、協力
 - ④ 本校研究開発における大学教員の協力
 - ⑤ 大学の男女共同参画社会推進委員会推薦の大学教員による講話。キャリア教育、人権教育と関連する。
- 2 外部人材の活用
 - ① 社会体験学習に行く前の礼節指導を、外部講師を招いて行っている。
 - ② 病院内のインクルーディングセンター職員の指導による「車いす体験学習」等、道徳、人権教育に関連する学習を、外部講師を招いて行っている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- 教育実習・教育研究を実施していく学校であり、将来の地域の教育力を高めることに資する学校です。
- 学習面だけでなく特別活動や生徒指導面もしっかり行っていく「体・知・徳」の調和のとれた生徒を育成する学校です。
- 落ち着いた学習に集中できる環境で学び、登校時の挨拶、服装、行動等、中学生として地域社会の模範となる生徒がいる学校です。
- 生徒会活動「恩返しプロジェクト」（通学路のゴミ収集）など、地域社会に貢献する活動を行う学校です。
- 未来を拓く力を育成する研究を行い、地域の公立学校にその研究内容を啓発する学校です。
- 熊本県の各教科の事務局が数多く置かれており、研究の拠点となる学校です。

※ 「平成 28 年 熊本地震」に際して、地域の避難者を受け入れる「一時避難所」として、施設の一部を開放するとともに、教職員がその運営に当たりました。附属学校職員と在校生、卒業生、保護者というマンパワーに加えて、附属学校同士のネットワークを活用した運営は、今後も地域に貢献できる部分であり、その意識をもって備えておく必要を強く感じました。



全国から、本当に多くの支援をいただきました。



ボランティアの中高生による避難者の健康管理支援（ラジオ体操） 避難者も一緒に調理

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

日本の資源は人です。そして、教育の目的は人づくりです。そのような教育の基盤を支えるものとして、附属学校園は存在していると考えます。

[教員養成課程における、大学と現場の橋渡しができる学校として]

教育の質を高める優れた教員を育成するためには、教育系大学が教員養成の主体として機能し、附属学校園は、それを補完するための存在でなければなりません。附属学校が行う教員養成には、学生が大学で学んだ授業づくりの理論と、現場の日々の授業づくりをつなぐ働きがあると考えます。現実的には、学生が大学で学んだ授業づくりの理論と現場で毎日行われる実際の授業づくりには大きな開きがあります。また、現場で必要とされる教師の仕事は授業づくりだけではありません。そこで、大学の先生方と連携して、大学の講義で学んだ授業づくりと現場で行う授業づくりをつなぐ架け橋として附属学校園で実習を行うことで、学生が授業づくりに自信を持って現場で要求される様々なニーズに対応できる教師になれるのだと考えます。

[他の公立学校等の指針となる学校として]

附属学校園での児童生徒の育成は、他の公立学校等が目指したくなるような高い次元を目指して行われるべきだと考えます。人間関係形成力、コミュニケーション能力、企画・実践力、メタ認知力などの現代社会に求められる人間力を育成する場として、不易の部分は大切にしながらも、常に先進的な課題解決の姿勢を持ち続けているのが附属学校園です。この意識があるからこそ、教科教育においては、現場の先生方の悩みを聞き取り、悩みに応じた具体的な実践事例を紹介したり、時には現場に出かけて行って模擬授業を行ったり、授業づくりについて双方向に相談できる場として存在できているのです。

[全国規模のネットワークが生かせる学校として]

文科省を核としたネットワークが形成できるのも附属学校園の強みです。附属学校園は、全国附属のネットワークを活かし、研究を積み重ね、日本の将来に貢献したいと考えている学校です。教育全般について、時代の要請と国の意向を踏まえて、学校で育成すべき学力（資質や能力）とは何かを校内研修を通して明らかにし、たとえば既存の教科教育の可能性と限界、教科の枠組みにとらわれない新たな教科の編成に向けて、理論研究や実践研究を行い、その成果などを全国の学校に紹介していくことなど、この国の教育の未来を追い求めることに、日夜取り組んでいる附属教員たちがいます。時代や世界の動向を見据え、この国を支える人づくりのために、今必要な教育のあり方を実践的に研究する附属学校園には、欠くことのできない存在意義があると考えます。